

栃木県北と茨城県北を  
結ぶ幹線道路整備及び  
公共交通の連携について



菊池 久光 議員

一般質問



櫻井 潤一郎 議員

要約筆記記者養成講座  
について

**質問**…栃木県北・茨城県北を結ぶ幹線道路整備についてしっかりと調査を行い、国・県に対して要望活動を行っていくべきと思うが、考えを伺います。

**答弁**…栃木県北部と茨城県北部は、経済活動や観光交流及び地域医療連携で密接に結びついています。八溝山周辺地域定住自立圏で地域交流から定住に結びつく圏域づくりを進めています

が、この地域は八溝山系山間部に位置し高速道路等の高規格道路空白地帯でもあります。栃木県ホームページによると、平成29年10月・11月及び平成30年3月に有識者による茨城・栃木・福島3県の広域連携軸形成の道の道路懇話会が開催され、高規格な道路のあり方などについて検討が行われ、総括として3県で足並みを揃え連携して進める

ことで高規格な道路を着実に具現化していくべきと報告されているようです。本市としても、高規格道路縦軸として栃木県北東部を貫く道路、横軸として茨城県港湾区域から栃木県北部に繋がる道路整備が重要であると考えています。今後とも国・県等の動向に注視し情報収集に努め、道路整備等の要望活動に繋げていきたいと考えています。

**質問**…現在までの受講者及び活動人数について伺います。

**答弁**…養成講座は、栃木視聴覚

障害者情報センター主催と各市町主催の講座があり、センター主催の受講者は、平成26年度10名、平成27年度11名、平成28年度20名、平成29年度17名です。このうち大田原市民の受講者は1名です。また、県内各市町主催としては、日光市と大田原市

が実施をしており、大田原市主催の受講者は平成26年度2名、平成27年度1名、平成28年度1名、平成29年度の受講者はゼロ

で、伸び悩んでいる状況です。次に、活動人数は、センターの登録者は栃木県全体で152名です。内訳は手書きが98名、パソコンが46名、手書きとパソコン併用が8名です。そのうち大田原市の登録者は6名で、手書

きが5名、パソコンが1名です。

**質問**…必要性、継続性について伺います。

**答弁**…今後は、ますます要約筆

記者の派遣需要が高まると思われますので、この事業は継続して、一人でも多くの方に受講していただきまますような市の広報やホームページにより周知徹底を図ってまいりたいと考えております。